

1. 2021 年度報告

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連) ー 2022 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施状況 ー ① 2022 年度入試に向けて 2020 年度以降の入試改革で実現した、一般入試・帰国生入試における願書の Web 化、2 次試験 (面接) の廃止、入試会場の一本化 (早稲田会場のみ) 等を引き続き実施しました。 ② 入試広報の効果的展開 学校説明会については、海外を含む遠方からの参加を容易にし、かつ新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインにより実施しました (第 3 回目は対面・オンライン併用)。効率よく学院の特色や入試情報を伝えるとともに、在校生や留学生も積極的に協力することで、高校生活を身近に感じていただきました。また、生徒寮の情報や相談の場を提供し、親元を離れての様々なバックグラウンドをもった生徒との共同生活の雰囲気も感じていただくことができました。
(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連) ー グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み状況 ー ① カリキュラム改定 2022 年度からの新学習指導要領実施に向けた新カリキュラムが完成、時間割等も整備しました。コロナ禍中、教育のオンライン展開などで積み重ねた経験とリソースは、ポストコロナでのさらに質が高く工夫された授業展開に活かされます。 ② 卒業論文指導の強化 第 2 学年から取り掛かる長い探求活動の中で、卒論指導とともにライティング、プレゼン教育についても注力しました。また、オンラインによる卒論報告会を実施しました。今後、高大連携や地域連携による課外活動等を通じて関心を持ったテーマなど、さらに多角的な課題設定も期待されます。 ③ 学部推薦選抜制度の充実 高大接続の一環で、ミスマッチがなくモチベーションの高い生徒を学部推薦することを目指し、学部との教育活動の連携や情報交換を密にし、生徒がそれぞれの学部・学科への理解をより深いものにできるよう努力しました。大学キャンパスでの対面による学部説明会は感染拡大防止の観点から行わず、オンラインで実施しました。同じくオンラインにより、第一線で活躍中の社会人等も交えてのキャリアデザイン講座を実施し、学部で何を学ぶか・どんな未来を描くかをイメージできるよう、進路指導の充実を図りました。 ④ 2021 年度より日本医科大学への学校推薦制度を導入し、同大学におけるキャンパスツアー、模擬講義等を実施するとともに、医学の道を志すうえでの心構え等の指導も行いました。 ⑤ 地域連携プログラムの充実 地元小学校との交流事業 (総合的学習の支援)、本庄早稲田の杜ミュージアムでのワークショップ支援、ほんじょう FM での番組企画・出演等を実践しました。とりわけ地元小学校との合同河川調査については、長年の継続的な取り組みが評価され、第 11 回毎日地球未来賞「SDG s 未来賞」、令和 3 年度彩の国埼玉環境大賞「優秀賞」を受賞しました。 ⑥ 企業連携プロジェクトの推進 石油資源の循環による環境負荷の低減 (CO2 排出削減) の啓発を目的に、サントリーとの共同プロジェクト『「ボトル TO ボトル」水平リサイクルを考える ～身近な事例を通して SDGs と向き合う～』を展開しました。さらにこの取組の具現化として、「飽きられずに長く使ってもらえるようリサイクルボックス」創出プロジェクトを立ち上げ、コンペの結果選

ばれた『3秒チャレンジサイクルボックス』を、理工学術院ものづくり工房と共同開発し、斬新なアイデアが詰まったりサイクルボックスを校内に設置しました。企業、大学との協働作業を継続する中で、プレゼン、意思決定、ものづくり等の難しさも楽しさも経験することができました。

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み状況 －

本学院の専任教員、非常勤講師等による研究論文や調査報告を掲載した「研究紀要」を年 1 回刊行しています。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み状況等 －

- ① 2018 年度に、1 年間留学をしても高校 3 年間で卒業できる「第 2 種留学」制度を作ったものの、2020 年度においては、コロナの影響で留学希望者がいませんでした。本年度はこの「第 2 種留学」により 1 名がオーストラリアに、また従来の「第 1 種留学」により 2 名が海外（フランス、アメリカ）に旅立ちました。
- ② インドからの留学生 1 名を第 1 学年に迎え、コロナ禍のため期間は 1 年から半年間に短縮されたものの、多様な学びの他に、地域交流、インド文化の紹介活動、日本各地への研修訪問等のプログラムにも精力的に取り組み、充実した留学生活を、クラスメイトや寮生とともに過ごすことができました。
- ③ 大学進学後の留学を視野に入れている生徒、保護者向けには、国際部・留学センターとの連携による留学説明会を、本年度はオンラインにより実施しました。
- ④ コロナ禍でも留学や国際交流の意義を伝え、モチベーションを維持してもらうために、以下のとおり様々なオンライン企画を実施し、多くの生徒が参加しました。
 - ・ 特に新入生に向けて国際交流の良さを伝えるために、ミニシンポジウム「国際交流へのいざない」を 4 月に開催しました。
 - ・ 韓国セロナム高校との学術交流シンポジウム（オンライン）を開催しました。合同で 6 つのグループを作り、SDGs の各テーマについて、日韓の比較と問題解決についての提言を目指し、5 か月間の共同研究を行いました。12 月 21 日には最終目標であった国際フォーラムを ZOOM で開催しました。
 - ・ Philippine Science High School - Eastern Visayas Campus ・タイの Princess Chulabhorn Science High School Trang との共同研究を行い、11 月に開催された国際高校生科学シンポジウム Japan Super Science Fair (JSSF) 2021 で共同研究発表を行いました。
 - ・ 姉妹校である Singapore National Junior College (NJC) と文理両面での共同研究を行いました。
 - ・ 姉妹校であるタイの Mahidol Wittayanosorn School とのミニシンポジウムを 12 月に実施しました。
 - ・ タイ、シンガポール、フィリピンの 3 校、国内 3 校で、国際シンポジウム Asia Academic and Cultural Sessions（本学院主催）を 2 月に開催しました。

2. 2022 年度計画

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連) － 2023 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画 －
① 願書の Web 化と 2 次試験 (面接) の廃止、試験会場の一本化等の影響を分析し、2023 年度入試に活かすとともに、全国・世界から多様で資質の高い生徒を受け入れるため、引き続き入試改革に取り組みます。
② ポストコロナにおいても対面に加え、オンラインでの展開を含めた学校説明会や相談会を開催し、地方や海外から多くの受験生が参加できるようにします。また、地元指定校向けの説明会や出前講義にも対応します。早苗寮 (男子寮)、梓寮 (女子寮) の魅力作りを進め、PR 方法も工夫していきます。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連) － グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画 －
① 多様で資質の高い生徒を受け入れる環境の充実 学びの環境をさらに整備し、生徒同士が議論し、互いに啓発し合えるラーニング・コモンズ的なスペースを確保できるよう、教室以外も含めた有効活用策を検討していきます。また、親元を離れても、充実した学院生活を送ることができるよう、寮生に向けた独自の地域連携プログラムなど、引き続き魅力的な寮の在り方を工夫していきます。
② 教育効果の高いカリキュラムの検討・多様で未来的な教育プログラムの展開 2022 年度からの新学習指導要領実施に伴い、新カリキュラムの整備・点検を継続的に行います。コロナ禍中に得た、教育のオンライン展開などで積み重ねた経験とリソースを活かし、ポストコロナでさらに教育効果の高い、未来的な授業展開、メソッドの開発を目指します。学部の意見を伺いながら附属のアドバンテージとなる、あるいは学部教育にシームレスに接続できるような授業展開を検討します。また、アントレプレナーシップ、SDGs 等の人材育成教育を大学関連箇所とも連携しながら推進します。さらに、地域連携 (貢献) ・企業連携・国際交流・研修活動・各種コンテスト参加など多様なプログラムで、本庄学院教育の可能性を広げ、入学した資質の高い生徒の能力や知的好奇心を育成します。
③ ミスマッチのない学部進学と将来設計を目指して 従来の進路指導のあり方を改め、大学生活や将来を総合的に考えた上で、学部選択・留学・就職を考えられるような進路指導を目指します。学部との教育活動の連携や情報交換を進め、学部説明会のあり方を検討します。キャリア教育同窓会や校友会との有機的な連携も作り、発展させます。 日本医科大学への学校推薦制度について、高等学院、早稲田実業とも連携のうえ、キャンパスツアーや医学系の模擬講義等を充実させます。
④ 卒業論文を軸とした論文リテラシー教育の充実 新カリキュラム導入に際し、論文リテラシー教育をうまく組み込む努力を行うとともに、どの分野の論文でも必要となるであろう統計処理やデータサイエンスに関するコンテンツを導入します。
⑤ 高等学院との有機的な連携と附属生としてのアイデンティティ育成 高等学院との、今までの連携プログラムを成長させるとともに、新たな協働連携プログラムの検討も進め、附属校生としてのアイデンティティ育成にもつながるようにします。

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連) － 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画 －
本学院の専任教員、非常勤講師等による研究論文や調査報告を掲載した「研究紀要」を刊行します。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連) － 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等 －
--

① 留学の促進

1 年間留学をしても高校 3 年間で卒業できる「第 2 種留学」制度や、Education New Zealand (ENZ) との留学協定を活かし、本学院から海外に羽ばたく生徒の増加をめざします。特に ENZ では個人の目的に沿ったフレキシブルな留学内容がカスタマイズできることが魅力で、その効果が期待されます。

② 受入留学生へのプログラム充実

本学院で受け入れる留学生についても留学中の教育プログラムの充実を検討し、留学生のみならず本校生徒にとっても得るものの多いような形態を目指します。

③ ポスト SSH・SGH のプログラム

本学院には、長い SSH・SGH 期間中に培われた経験と国内・海外校とのネットワークがあり、SGH 後も国際プログラムをどう継承させていくかの検討を継続します。これまで実施してきた Mahidol Wittayanusorn School (タイ)、National Junior College (シンガポール)、Hana Academy Seoul (韓国)、蘇州中学 (中国) との生徒訪問・受け入れの交流については、コロナ禍で一旦オンライン化あるいは停止されましたが、対面での再開に向けて努力します。これらの学校との連携については、国際シンポジウムの開催等を含め、未来的な国際交流のスタンダードとなるようなプログラムを双方で検討したいと考えています。

以 上